

●一斉学習

■児童生徒発表型

実践タイトル 文字の組み立て方を正確につかむ

本時のねらい

児童は、お手本の文字を見て文字の組み立てに気付くことはできても、その通りに書くことは難しい。そこで、ICT機器を使うことにより自己評価がしやすいようにし、自分の課題にそった練習を繰り返すことができるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

タブレットPCで取り込んだ画像データを共有させ、書き込みによって課題を共通理解させた。課題意識を持って手本を見ることができるように、タブレットPCを使ってなぞり書きをしたり、書いた文字をスライドして重ね合わせたりした。

静止画

教科書の手本や児童の作品を画像データとして取り込み、書き込みをしてクラス全体で考えたり、個人の自己評価に使ったりした。

参考にしてほしいポイント

機種が違うPCと一緒に使う場合、やや面倒な場合があるが、クラウドサービスやファイル共有ソフトウェアを活用すると、それぞれの機器の使いやすい面を気軽に利用することができる。また、各ソフトウェアの特性を理解していれば、今回のように「なぞり書き」をしたり「スライド」をさせて画像を重ねて比較したりと、アイデア次第で、より目的にあった使い方ができる。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入	0 15	○毛筆で「林」を試し書きし、左右の組み立て方の注意点をどの程度意識して書くことができたかを確認する。
	展開	35	○課題意識をもとに、それぞれ「林」の文字を書く。 ○なかなか手本どおり書くことができない場合は、タブレットPCでなぞり書きをする。また、手本を見てタブレットPCの画面に書き、重ねてみる。
	まとめ	45	○上手に書くことができた自分の作品を自己評価により交換する。 ○クラス全体の作品を、教師と共に鑑賞する。



写真1: 共有したデータに書き込みをする



写真2: なぞり書きで形を覚える



写真3: 書いた文字をスライドして比較する

児童生徒の反応

児童はICT機器を使うことに慣れているので、特に珍しがって使うということはない。しかし、相手の考えが視覚的に確認できたり、自分の書いた文字を客観的に評価できたりするので好評であった。

活用効果

評価の観点	関心・意欲・技能
具体的変容	一つの漢字が他の漢字の一部になると形が変化することについて、興味を持って確かめようとした。左右の組み立て方に気を付けて「林」の文字を書くことができた。

実践の手応え

今回初めて、ファイル共有ソフトウェアを使って電子黒板に画像データを映し、書き込みを行いながら児童がお互いの考えを出し合う活動を行った。また、この方法を使ってみて、今まで以上に、機種が違うPCと一緒に使えることが分かったので、他教科でも活用していきたい。